

令和5年度 環境で地域を元気にする  
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

## 成果共有会 発表資料

活動団体の本事業への関わり

今年度より“環境整備”に取り組む	✓
昨年度から引き続き“環境整備”に取り組む	

活動団体名：玉名市

活動地域：天水町

活動におけるテーマ

**地域人材エコシステムの確立**

～地域内経済の活性化に基づく帰って来たい田舎づくり～

# 活動団体および活動地域の紹介

## 玉名市天水町について



玉名市天水地区は、玉名市の西南地域。**東半分は山間部。西半分は平野部が広がる。**令和4年4月に**過疎地域に指定**された。人口の減少が止まらず、地域の担い手が減っている。当該地域には高校が無いために、高校や大学進学時に転出する者が多い。また農業・観光以外に仕事が少ないために、**結果的に転出する者が多い。**

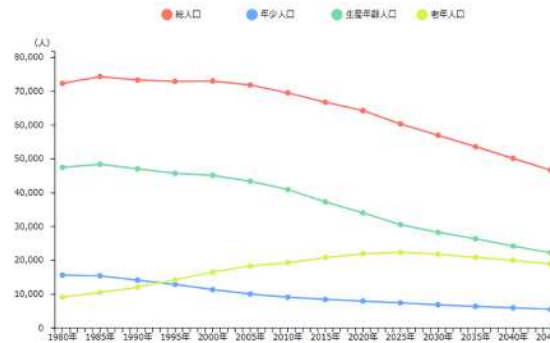
**農業が基幹産業**である。古くから「温州みかん」をはじめとする果樹栽培が盛んであるが、丘陵地、山肌での栽培のために就農者が減少している。近年は、共販から脱して、自らの農産物のブランド化を目指す農業者もあらわれたり、温泉も湧出していることから観光も行われている。



▲明治の文豪夏目漱石は天水地区を訪れ、小説「草枕」の舞台として記している。



## 玉名市について



生産年齢人口の減少が少なくなり。2020年52.96%が2030年49.63%と予測されている。地域の担い手不足に拍車に係る

玉名市は、1市3町で合併し、今回の天水町はその一つである。人口約65,000人。交通の便に恵まれ、国道、鉄道・新幹線の他、近隣には高速道路、フェリーなどアクセスに優れる。

**市内には高校5校、大学1校があるが、近年入学希望者の減少が確認できる。また若者の転出が目立ち、特に女性の転出は30代後半まで続き、結果的に人口が減る**という状況になっている。

## 協働のまちづくりを推進

持続可能な地域運営を行うプラットフォームを構築し、「社会×環境×経済」の好循環により、住民にとっていつまでも暮らしやすい地域を目指す。

# 地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

【住みやすい地域をつくりだす】

住みやすい地域づくり

関係人口

若者の流出

地域づくり  
協力隊

高校・大学の  
フィールドワーク

若者の地域参画

事業者  
コミュニティ

フィールド  
カリキュラム  
学びの体系化

若者  
コミュニティ

関係  
人口

起業家  
育成

買い物  
スーパー  
不足

宅地不足

遊休不  
動産の  
活用

EV

定住増加

子育て世帯の増加

保護者負担

高齢者問題

コミュニティ・アソシエ  
ーションの活性化

子ども食堂

通学、塾、  
スポーツの充実

コミュニティ  
(自治)の維持

都市農村交流

子育て環境向上

連係都市  
東京都  
文京区

地域人材エコシステムの確立

～地域内経済の活性化に基づく  
帰って来たい田舎づくり～

滞留時間 増

外部から稼ぐ力

木材チップ  
製造

外貨獲得  
イベント・  
商品開発

キッチンカー  
(農産物加工)

草枕温泉てんすい  
(キャンプ場)

交流施設の  
利用規定改訂

かそめけだそ  
イベント

眺望

廃校利用

企業による地  
域課題の解決

農業やり方改革

若手起業家  
とのマッチング

たまな  
未来創造塾

雇用力 増

鳥獣害被害対策  
ジビエ加工

多業種連携

地域メンターの育成  
(たまな未来創造塾)

地域課題  
カリキュラム

農業の収入向上

みかんで  
稼ごう

景観の維持

特産品づくり

農業支援者  
バンク

事業者  
コミュニティ

農産物直売所  
郷〇市

高付加価値な農  
業への転換

農業体験

ミカンの産地  
石積段々畑

元気な農家の  
女性

地域内経済循環

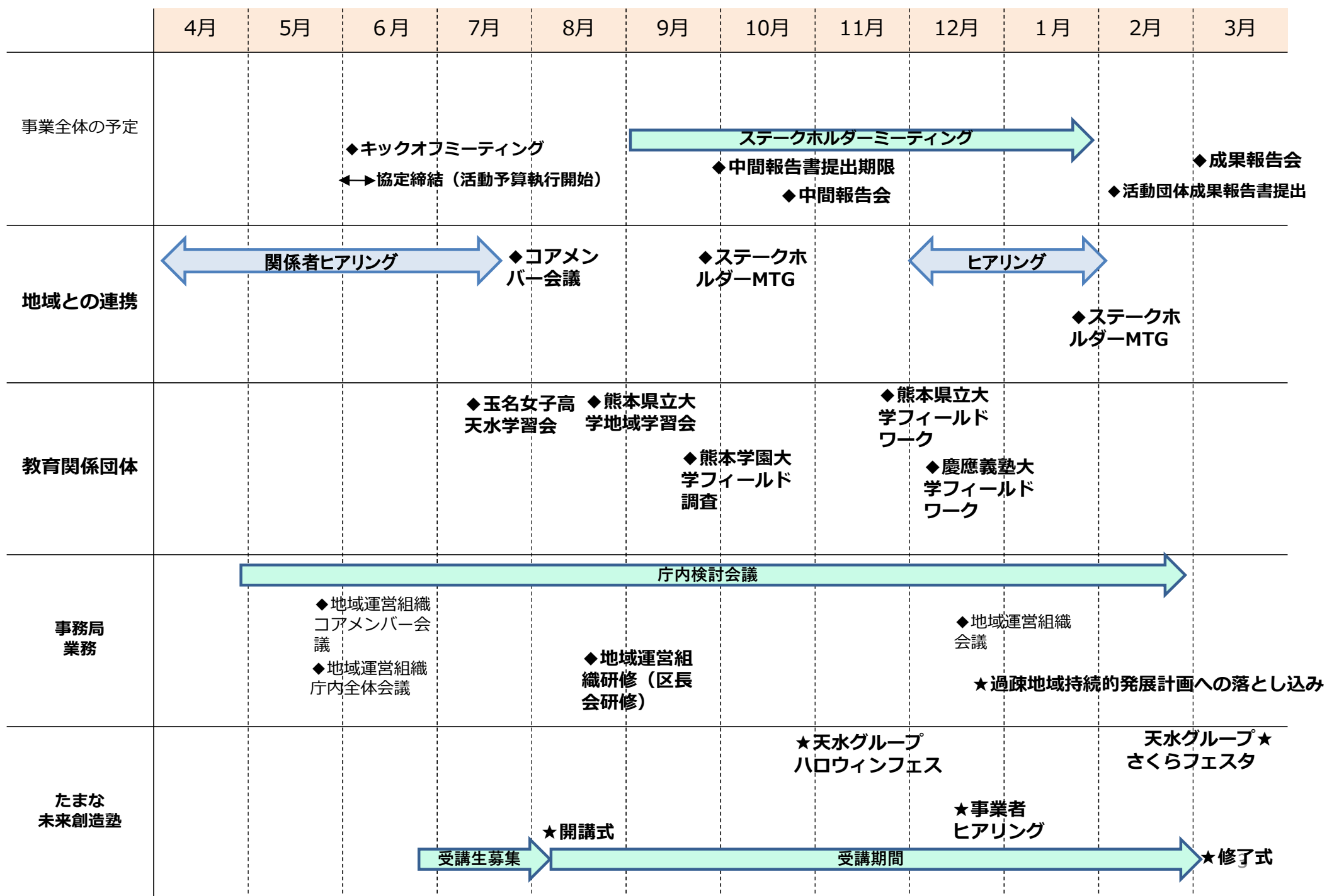
若者が望む職業  
の不足

担い手不足  
特産農業の疲弊

【連携によって地域で稼げる仕組みづくり】

- ①ビジョン
- ②地域課題
- ③地域資源
- ④取り組み
- ⑤成果効果

# 年間スケジュール





# 今年度チャレンジした主な取組内容

## 取組①「ステークホルダーミーティング」

～地域課題の確認と人々の繋がりをつくりだす～

### 【活動内容】

#### 【第1回】

日時：9月27日（水）午後1時30分～

場所：玉名市天水町公民館

#### 【成果】

以前のワークショップ等で抽出された「地域課題」を元に、「どんな街になれば住みたい街になるのか」というテーマでワークショップを実施した。

#### 【第2回】

日時：1月30日（火）午後3時～

場所：こぞき会館

#### 【成果】

第1回目のふりかえりを行った後、実際にまちをワクワクするための取組についてワークショップを行った。その結果、**新たな若手の発掘**。鳥獣害被害の実態やそれを活用したジビエ加工場。みかんの加工品の話など具体的な案が出てきた。

### 【活動の様子（写真など）】



## 取組②「実証実験」

～地域のポテンシャルを確認～

### 【活動内容】

農産物直売所「郷〇市」はミカンによる稼ぐカづくりの活動主体として連携を強めており、現時点のポテンシャルを検討するため、キッチンカーと訪問者（来店者）調査を実施した。

実施日：10月8日（日）、9日（月・祝）

回答者：133人

キッチンカー出動：2台

#### 【成果】

キッチンカーを要したことで滞在時間が延び、同時に農産物も販売につながり当事業による農産物の販売拠点として十分なポテンシャルがあることを再確認。

#### 【調査結果】

**来訪先**：天水地区61%、玉名市（天水外）12%、県内玉名市外32%、県外10%

**情報収集**：キッチンカーSNS35%、通りすがり29%、口コミ15%、その他SNS18%

**来訪目的**：キッチンカー56%、天水外に用事25%、天水地区に用事13%、郷〇市6%

### 【活動の様子（写真など）】



## 取組③「大学生による地域調査」

～外の目を通して地域を観察する～

### 【活動内容】

11月21日 熊本県立大学総合管理学部津曲研究室4年生が天水地区をフィールドワークを行った。

#### ▼フィールドワーク先

①草枕温泉てんすい、②草枕交流館、③みかん王国（樋口農園）、④小天天子宮（保存会会長）、⑤小天商店街、⑥郷〇市（市職員）

#### 【成果】

フィールドワーク先で、それぞれの地域住民等からヒアリングを行った。

このフィールドから学ぶことが多いとして、R6年度から熊本県立大学で実施される**地域づくり授業（全学科必須科目）に採択された。**

#### 【その他大学との交流】

- ・慶應義塾大学SFC 加藤ゼミ
- ・熊本学園大学 佐藤先生

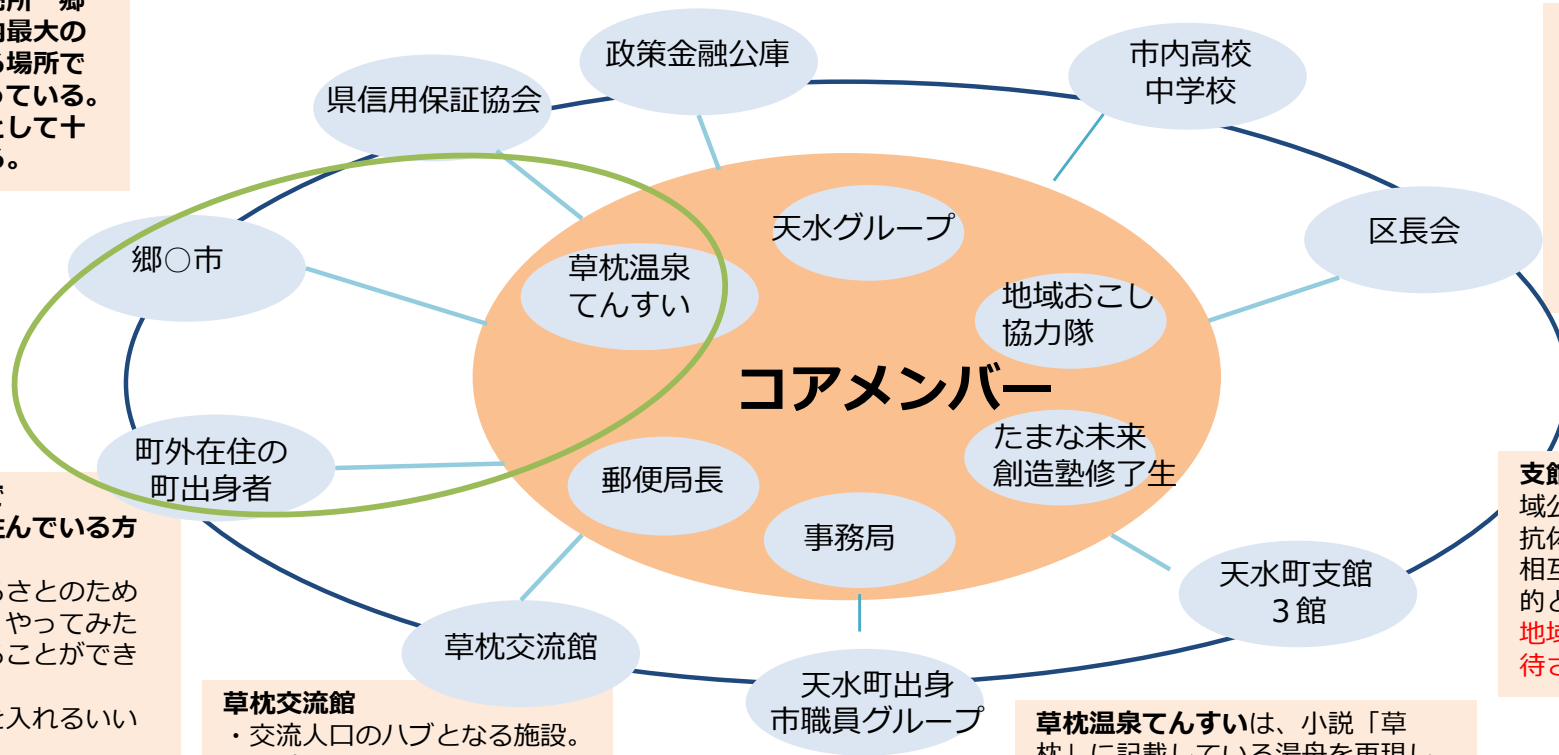
### 【活動の様子（写真など）】



# 現状の地域プラットフォームと取組を通じての変化

「農産物直売所 郷○市」=町内最大の交通量のある場所で直売所をやっている。  
→実施の場として十分に機能する。

たまな未来創造塾修了生：地元企業経営層を対象としたCSV（共通価値の創造）ビジネス塾。地域課題や地方創生等の実例などを学び自社企業のビジネス提案を行うもの。  
→みかんを基軸としたビジネスの提案があった。



天水町出身で現在町外に住んでいる方  
・関係人口  
・なにかふるさとのためにやりたい、やってみたい方が集まることできた。  
・外の意見を入れるいい機会。  
→ステーキホルダーミーティングに参加してもらい協働が生まれつつある

**草枕交流館**  
・交流人口のハブとなる施設。  
・地域学習の拠点としての活用が期待できる。  
・地域案内人

草枕温泉てんすいは、小説「草枕」に記載している湯舟を再現した温泉施設。現在は指定管理者運営となっており、キャンプやコテージなども要している。

支館とは、小学校区単位の地域公民館事業のこと。地区対抗体育祭などを開催し、住民相互の親睦を深めることを目的として実施をしている。  
地域運営団体の主体として期待される。

## 地域プラットフォームの変化

### 地域の反応

あるべき姿を実現するためには、**地域運営組織等**のメリットや必要性を**理解**するようになった。

### ステークホルダーやコアメンバーの広がり

地域課題が具体的になるにつれて、ステークホルダーメンバーを増やしていった。  
→**小さな取組を実施**  
※**大学生等の調査や実証実験**

### 関係者の意識の変化

地域の課題は行政が「どうかしてほしい」  
↓  
参加者の自主性による「やりたいこと」を提案するまでになった

### 取組の環の広がり

#### 町外事業者の参画

・地域にポテンシャルを感じている町内事業者や、町外に住む町出身者が集まってもらうことができた。

#### 若者の発掘

若者がいないといわれていたが、新たな若者の発掘ができ、積極的な意見があつまった。

# プラットフォーム形成のポイント

## 地域のビジョンを描く

### 地域人材エコシステムの確立

～地域内経済の活性化に基づく 帰ってきたい田舎づくり～

かつて「みかん栽培」で町全体が潤っていた時代があり、多くの若者が家業としての「みかん栽培」の従事していた。今も山肌に広がるみかん畑石積の光景は当時の面影を残している。いまでも「みかん」に対する町の人々の熱い思いがあるが、みかん価格の低迷等で、次世代に継がせることをあきらめざるを得ない状況となっている。荒れ始めたみかん園。鳥獣害被害で石積みは崩れ、耕作放棄されたみかん園は森と化していき自慢の景観が失われていく。もう一度、地域の産業「みかん栽培」を基軸に「みかんの里」を復活させることで、人が帰ってくる地域にしたい。地域の人々の想いは、自分たちの産業を取り戻すことで人口減少に真向に立ち向かうそのような地域人材エコシステムをつくりだすことであった。

## 仲間を探す

- 過疎地域であるため、そもそも若者の参加が厳しい。  
※若者がいないという声も…  
※地域の外にいる方も多い
- 町内事業者がメインとなり、いつものメンバーになる
- 話合いの段階で、メンバー間で誘い合いながら、新しいメンバーを集める体制へ  
→事務局が人集めをするのではなく、自律的に人集めが出来るように
- 地域のために何かやりたい層

## 体制を整える

- 活動団体（＝玉名市役所）  
市民活動支援部署           ：地域振興課  
過疎対策部署                ：企画経営課
- 市の施策との連動（＝地域運営組織）
- コアメンバーからの広がり  
→ステークホルダーへの声掛け  
※見直し

## 事業を生み出す

大きく分けて3つの事業となっています

- **住みやすい地域をつくりだす事業**  
生活の質を維持する。新たな人の流れや関わりをつくる
- **連携によって地域で稼げる仕組みづくり**  
みかんを基軸に従来からのやり方を変える  
鳥獣害被害に対処する
- **地域運営組織**  
プラットフォームのなかで循環を生み出す

## 事業を考える

- 地域の課題からあるべき姿を考える  
〇〇が無いからできない・やれない  
→どのような状況になれば地域が良くなるのか
- 地域の資源（価値）を探す  
＝古くからの地域産業「果樹（みかん）栽培」  
→地域のみかん愛がすごい！
- みかんを基軸に検討する（したい）：熱量



# 取組を通しての成果と新たに見えてきた課題

## 取組を通しての成果

### ① ウィズコロナ時代の人々のつながりの再生



多くの行事などが失われた結果。人々のつながりの希薄化が生まれていた。SHMを通じて新たな人々の繋がりが生まれた。

### ② 人口減少に立ち向かうプレイヤーの発掘



過疎のなか「新しい試みをやってみよう」、「ふるさとの為に何かしらやってみたい」という人々が集まるようになった。

### ③ 「みかんの里」への熱き思い



住民の地域特産物である「みかん」に対する情熱を再び感じることができた。このみかんを基軸に考えていく必要が見えてきた。

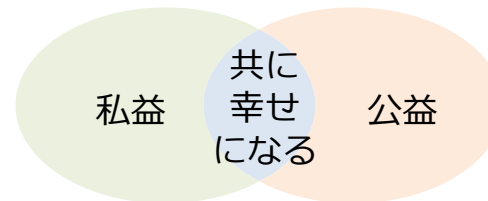
## 新たに見えてきた課題

### ① 若者（小中高）の意見の反映



次世代を担う若者の声を今回拾うことが出来なかった。さらに事業をより磨かれたものにするために若者の声を反映する必要がある。

### ② 資金の私益性と公益性の循環



「稼げる地域づくり」を目指す一方で、自分たちの生活の質をみんなでも実現する視点がなかなか生まれない。

### ③ 循環を基軸としたまちづくり



どうしても従来の考え方になってしまい、循環を意識したまちづくりまで考えが昇華できなかった。



## 玉名版地域運営組織の実装

～時代合わせ課題を解決し続ける「学び」から生まれる**自律的地域運営組織**の形成～

縮小する世の中で、様々なアソシエーションが生まれ、自立分散型の活動を行う、そのような状況のロールモデルを天水で実装する。

### 対話を通じて、地域の人や資源を知る 地域に囲まれて育つ・支える

【自分たちの生活を見る力を育てる（小中学生）】

- ・ 地域課題に対する
- ・ 地域研究の環境を整備
- ・ 研究の支援体制の充実化
- ・ **やりたいことを見つける実現する**。大人との対話。

※新たな目標、新たな興味を誘発する、自己肯定感の向上

- ・ 学んだことをまとめ、多くの人と共有する

※地域発表会「さしより天水」

### 自律的で持続可能な社会を創る（地域）の 担い手を発掘育成

【起業家・自己実現を目指すためのプラットフォーム】

- ・ 自ら地域の課題を発見し解決のために実行する力
- ・ CSVによるローカルSDGsの展開  
→たまな未来創造塾との連動
- ・ 地域課題を解決し玉名に活力を生み出す
- ・ 時代に合わせた玉名の在り方を考え、実施する  
= **ありたい未来、ありたい天水を実現するため**  
**共に考え・共に行動する人々のつながり**



【リーディングプロジェクト①】

経済を動かす

### 「みかんを使った新たな加工品作成」

【課題感】

生産者は、みかんがたくさんある時期に収穫作業に追われ、自分たちの商品（みかん）の価値向上のための行動がとれない状況。1次、2次、3次産業がお互いに手を取り合って（地域商社の設立）、「みかん」の様々な価値向上を目指す。特に、みかんの加工品で手短なところから始め、**天水と言えは「みかんの里」**となるよう、通年でプロモーションが打てるようにする。

まずは要望の多い事業から小さく実施し、興味関心のある人々のグループをつくっていく

「近き者悦べば遠き者来る」の状況をつくりだす

UIターン

関係人口

【リーディングプロジェクト②】

社会を肌で感じる

### 「地域課題最先端の街でフィールドワーク」

田舎＝なにもない・夢もない

このような図式から脱却するため、高校生や大学生のフィールドワークを実施。単なる課題先進地ではなく、この課題だらけの地域のなかで、しっかりと根を下ろしたくましく生きている人々の姿や未来を感じるローカルビジネスの姿を見て、感じて、自分のキャリアアップに繋げてもらう場として開放する。

天水地区で得たプラットフォーム形成ノウハウを市全体に波及し玉名版地域運営組織を多数展開。  
持続可能な地域づくりを市全体で実践する。

# 参考：アクションサイクル・モデル Ver 1.0

